

22 おこうつつあんの いわなげ

—おえぐんの みんな—

むかし むかしの おこうつつあん（こうつざん）は、たいそう わがままで、かんしゃくもちの 山^{やま}だったそうです。

なつ、あつい 日^ひが つづく、きげんが わるくなり、大きな いわを あたり かまわず なげつけるのです。

また、ふゆ、さむいと いったは、ちからが つよいのを よい ことに して 大あばれです。

まわりの 山やまは、木^きは いたむし、あなは あくし、こまって いました。でも、だれも こわくて、「やめろ。」と いえません。

おこうつつあんの いわなげは、ますます ひどくなるばかりでした。

「みんなで ちからを あわせて、おこうつつあんをおとなしく させよう。」

山やまは、ひそひそ はなしあいました。けれども、すすんで やろうと する ものは だれも いません。

そのとき、

「よし、わしが おもいきり こらしめて やろう。」
と、よしの川の おこうぎしの 大たきさんが いいま
した。

ある はるの あたたかい 日の ことでした。

おこうつつあんは、よい きもちで うとうとして
いました。

「おうい、おこうつつあん、げんきかい。」

と、大たきさんが よびかけました。

すると、おこうつつあんは、



「うるさいなあ。」

と、いわを なげつけて きました。

大たきさんも、じぶんの いわを おこうつつあんの
おなか めがけて、ドーンと とん なげつけました。

たちまち 大げんかです。二つの ふた 山は、なげるわ、
なげるわ。なんびやく なんぜんという いわが、
とびかいました。

ほかの 山やまも、ちからが わいて きました。

そして、こえを そろえて、大たきさんの おうえんを
しました。おうえんの こえは、あらしのように ひび

き わたりました。

どれくらい たったでしょう。

おこうつつあんから、いわが とびだすのが ぱった
り やみました。みると、おこうつつあんは、ぽかんと
して います。

しばらくして、おこうつつあんは、

「まいった、まいった。」

と いいました。

その ときから、おこうつつあんは、しずかに なつ
たのです。

22 おこうつつあんの いわなげ

1-(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。(勇気)

①主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

自分がよいと思っても、利害や怖さがさきに立ってなかなか実行できないものである。しかし、よいと思ったことは勇気をもって実行し、いけないことは断じて行わないという気持ちが低学年の時期より育てられなければならない。

今、何が正しく、自分がどう行動すべきか判断が付き、実行できるよう深くとらえさせたい。

〈子どもの実態について〉

一年生は、学校生活になれるにつれて、交友関係に広がりができる。が、自己規制力が弱く、勢力の強い者の言いなりになったり、悪い遊びだとわかっていても、誘われると仲間はずれにされるのがこわくて断れなかつたりする子どももいる。また、けんかが強かったり、乱暴な遊びをしたりする子が、勇気のある者としてみられたり、英雄扱いされたりすることもある。一方では、友達がいじめられているのをかわいそうだと思って、助けたいと思う心も芽生えてきている。

〈資料について〉

本資料は、わがままで機嫌が悪くなると、まわりの山々の迷惑も考えずに、あたりかまわず岩を投げつけ大あばれするおこうつつあんに、大滝山がこらしめてやろうと立ち向かった。他の山々もそれを見て応援し、とうとうおこうつつあんを降参させ、静かにさせたという話である。

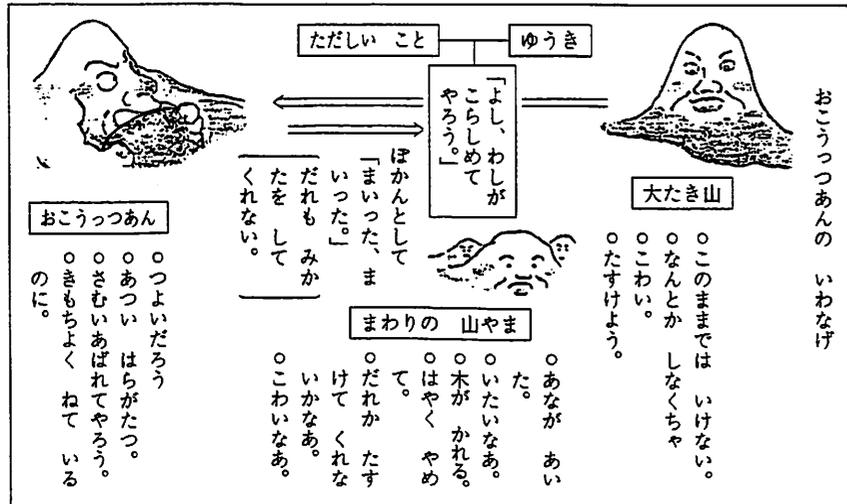
このようなことは、多くの子どもが、日常生活の中で体験していることであり、みんなのことを考え、こわくても立ち向かっていった大滝山やまわりの山々の気持ちに十分共感できると思われる。相手がどんなに強くても勇気を出して、まちがったことは許さないという気持ちを高め、ねらいとする価値にせまらせたい。

※山の民話なのでいわなげをしているが、実生活での石投げはいけないことを注意しておく。

②ねらい

正しいことを愛し、勇気をもって行おうとする態度を養う。

□板書



③展開

学 習 活 動	支援上の留意点
(1) おこうつつあん(高越山)や大滝山が郷土の山であることを知る。 ○ おこうつつあんや大滝山を知っていますか。 ・知っている。 ・行ったことがある。	・ 地図等で位置をおおまかに教え、郷土の山であることを知らせて資料への導入とする。
(2) 資料「おこうつつあんの いわなげ」を読んで、おこうつつあんがあばれたときの大滝山やまわりの山々のしたことや気持ちについて話し合う。 ① おこうつつあんは、どうして岩を投げつけたり、大あばれをしたりしたのでしょうか。 ・ 暑いから腹がたって岩を投げた。 ・ 寒いからあばれてやろう。 ・ ぼくは、強いんだぞう。 ② まわりの山々や大滝山は、どう思ったでしょう。 ・ 乱暴なやつだ。悪いことをするなあ。 ・ 木はいたむし、穴はあくし、早くやめてくれないかなあ。 ・ 「やめろ。」と言いたいけど、こわいなあ。 ・ 誰かやめさせてくれないかなあ。 ③ 大滝山は、どんな気持ちで「こらしめてやろう。」と言ったのでしょうか。また、まわりの山々はどんな応援をしたのでしょうか。 ・ かんしゃくもちの山をそのままにしておいてはいけない。 ・ 何とかしておこうつつあんを静かにさせて、まわりの山々を守ってやろう。 ・ 大滝山といっしょにわがまをこらしめよう。 ④ おこうつつあんがぼかんとして「まいたた。まいたた。」と言ったのは、どうしてでしょう。 ・ 岩を投げつけられたら痛いんだなあ。 ・ 誰も応援してくれないや。ぼくのしてきたことが、悪かったんだなあ。 ⑤ このようにおこうつつあんを反省させた大滝山たちのことをどう思いますか。 ・ 正しいことをするのは、大事なんだなあ。 ・ 正しいことを実行する勇気がある。	・ 岩なげをしたり、大あばれをしたりするおこうつつあんのわがままぶりや、それに対するまわりの山々の気持ちについて考えるようにし、おこうつつあんの行動は、自分勝手な行動で、まわりの山々に迷惑をかける悪いことだということを話し合うことができるようにする。 ・ 一人で立ち向かっていった大滝山とまわりの山々の様子とを比べさせながら、相手がどんなに強くても不正を許さない大滝山の勇気とまわりの山々の正義感に十分共感できるようにする。 ・ 勇気を出して戦った大滝山とそれに励まされたまわりの山々が、おこうつつあんの態度を変えたことに気付くようにする。 ・ よいことを進んで行う勇気やすばらしさをつかむことができるようにする。
(3) 自分たちの生活を振り返る。 ○ 思いきってやろうと思ってもできなかったことや、やってよかったと思うことはありませんか。 ・ 友達がけんかをしたり、いじ悪をしたとき注意した。	・ 子どもの作文や日記等を活用し、自分のよさに気付き、実践意欲を高めるようにする。
(4) 教師の説話を聞く。	・ 教師の説話を通して、ねらいとする価値の大切さが深くわかるようにする。